

患者聴取に基づく処方提案

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、患者より副作用を聴取し、症状に応じた処方提案を行うことで、安全な薬物治療の継続に貢献できた事例のプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

Yさん

▶肺腺癌のため化学療法施行中の患者。副作用モニタリングのため訪室。

【レジメン】 カルボプラチン+ペメトレキセド+ペムプロリズマブ



Yさんこんにちは。
化学療法が始まって7日目ですね。
体調はいかがですか？



薬剤師

吐き気はだいぶ治まりました。
食事摂れるようになりました。
でもお通じが出なくて。



そうでしたか。
抗がん剤や吐き気止めの影響かもしれませんね。
おなかが張ったり、便を出したい感覚はありますか？



トイレは行ってみるんだけど、硬くて出ない感じがするの。



なるほど。
では、便をやわらかくするお薬を使ってみたら効果がある
かもしれません。先生に相談してみますね。



ありがとう。よろしくお願いします。

その後、Yさんは酸化マグネシウムが内服開始となり、便秘症状は改善した。
副作用モニタリングを行い、聴取した症状に対して適切に対応することで、
安全な薬物治療の継続に貢献できた。